

番号	俳句	番号	俳句
1	梅雨入や傘の花咲く交差点	51	青き空巨樹より銀杏落葉かな
2	紫陽花の坂道を越え湯治かな	52	アルバムにあの日の落葉そのままに
3	日が落ちて蛍の光霽の中	53	七五三 最後の孫が無事に済み
4	疾(と)く来よと孫の指さす蛍かな	54	庭先を今年も染むる柿落葉
5	六月の花嫁雨に苦笑い	55	老妻の親より燥ぐ(はしゃぐ)七五三
6	指先をこぼれて消ゆる蛍かな	56	落葉道抜けて日向の棚田道
7	このセンサ如何に反応ほたる火に	57	籠を背に落ち葉集めて温床へ
8	遠雷に追はれ下山の息弾み	58	七五三羽織袴にはしゃぐ孫
9	昼寝子の無邪気な笑顔夢人中	59	木を切りて落葉を待ちて薪にして
10	稲光指折り数え一安心	60	七五三祝詞遮るぐずり声
11	冷奴庭のシソの葉出番なり	61	店内へ落葉を誘ふ自動ドア
12	電話にも居留守決め込む昼寝かな	62	日溜まりにまどろむ猫や冬日向
13	その小皿妻の手作り冷奴	63	年の暮ひとり期待の宝くじ
14	庭師二人板間で昼寝相似形	64	侘しげに諭吉去り行く年の暮れ
15	いつしかに遊び疲れて孫昼寝	65	今夜も煮込んだおでん酒の友
16	雷雨激し川と見まがふ山の道	66	体育館第九聴こえる年の暮
17	曇目の痕右頬に昼寝覚	67	大根がスクラムを組むおでん鍋
18	雷鳴やすわパソコンを慌て切る	68	友亡きを葉書で知るや年の暮
19	雷や親父の怒声目に浮かぶ	69	これ如何溢るマスクの車内かな
20	幼き日皆で作しお盆綱	70	葉牡丹の店はみ出せる年の暮
21	駆り出され河内音頭の初踊り	71	会釈されはてどなたかなマスク顔
22	足指のマニキュア赤く盆踊り	72	店頭は迎春一色年の暮
23	目が回りよろけて叩く西瓜割り	73	家族来て心華やぐ雑煮かな
24	どおんどおんと音が後れて遠花火	74	恩人に感謝の賀状減るばかり
25	また一つ余韻残して遠花火	75	孫なりにうまきねずみの年賀状
26	骨埋むる郷の音頭や盆の月	76	新雪やごみ出す人の靴の跡
27	花火果て心空しき夜空かな	77	九州の雑煮で祝う岐阜の春
28	台風禍出勤指示に身のしまる	78	伊吹白し雪に備へてタイヤ替ふ
29	暗闇の川面に浮かぶ月明かり	79	孟宗のぐにやり撓んだ雪の朝
30	お供えし家族で祝う秋の月	80	窓枠に頭擦り寄せ雪探し
31	渋滞の車窓に白し秋の月	81	年賀状止め時思ふ歳になり
32	ひさびさに空仰ぎ見る良夜かな	82	嘗て待ち今は人ごと雪便り
33	台風は日本への道あるごとく	83	わが庭の草木芽吹くや春来る
34	冴え亘る空に名月懐として	84	シニアにはほのぼの和む梅の花
35	残業の帰路にごほうび今日の月	85	受付に一枝の梅面接日
36	庭木には実の生る木植え待つ小鳥	86	春立ちぬメダカも見える藻の陰に
37	道草をわが庭にする小鳥かな	87	立春と言えど伊吹の白さかな
38	おらんちのそれは旨いぞ富有柿	88	伐採の残りし枝に梅開く
39	華厳寺の紅葉にこぞる人の群れ	89	立春といふに風花子ら追ひぬ
40	砂浴びに来ては去りする小鳥かな	90	春立ちぬ早も伊吹は地肌見せ
41	病む妻の撒き餌求めて小鳥また	91	ふと見れば藪に一本梅の花
42	夕映えや黒塚を越え柿一つ		
43	黄葉を敷いて明るき道となり		
44	重なりて紅葉の紅(あか)更に濃く		

45	紅葉の燃ゆるがごとし池田山		
46	若狭路や柿鈴生りて艶めける		
47	柿送る発祥の地と書き添へて		
48	柿求め無人販売はしごする		
49	楽しげに今日もさへづる小鳥かな		
50	空青し湖(うみ)に紅葉と逆さ富士		